

地方独立行政法人府中市病院機構 令和4年度の業務実績に対する評価について（概略版）

資料 4

総 合 的 な 評 定	●新型コロナウイルス感染症への対応 令和3年度に引き続き、発熱症状のある患者への外来診療や必要に応じた検査の実施、一部病床を改修した専用病床への受入れによる入院治療など、両病院とも公立病院としての役割を積極的に果たしている。	業 務 の 実 績 に 関 す る 評 価	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	●ワクチン接種への協力 両病院とも、ワクチン接種への積極的な協力について評価する。		[実績・成果] ●外来診療の充実が図られた（両病院） 府中市市民病院：常勤医師（泌尿器科）が1人増加。 北市民病院：診療体制の維持が図られている。 ●救急車受入件数が前年度比較及び年度目標を上回っている（両病院） ●「女性予防医学チーム」では、市の依頼に基づき、様々な講演会に講師を派遣した（府中市民） ●市民病院が担う役割・機能について、「病院機構の両病院は地域に必要な病院として維持する」という市の基本方針に基づき、必要な病床・診療科を維持している（両病院） ●コロナ禍でも受療機会を確保するため、オンライン診療や、電話での薬の処方に取り組んだ（両病院）
	●経常収支比率目標は未達成 経常収支比率目標：101.8% 実績：99.8%（839万円の赤字） クラスタ発生時の患者受入制限や、原材料費や電気料金の大幅な値上げなどの影響を鑑み、病院機構の最大限の経営努力については評価すべき。		[課題] ●防災・災害対策訓練や備蓄の不足 災害発生時に適切に対応できるよう、訓練を実施するとともに、備蓄品を確保されたい。 ●市民病院のあり方 両病院の患者の受療動向を注視し、地域の医療ニーズに適した医療提供体制について検証を続ける姿勢が必要。 ●ICT技術の活用 オンライン診療の安心で適切な普及に向け、地区医師会をはじめ、関係機関と協議・検討しながら進められたい。
	●府中北市民病院の入院患者数の減少傾向 原因把握と収益の確保に努め、第4期中期計画や公立病院経営強化プランの策定において、必要に応じ、市と協力して改善策等を検討されたい。		業務運営の改善及び効率化に関する事項
●必要な外来診療体制の強化・維持 府中市市民病院：常勤医師（泌尿器科）1人着任。外来診療が強化された。 府中北市民病院：内科診療体制を維持。眼科外来診療を継続している。	[実績・成果] ●職員が集まる形での研修開催が難しい中、eラーニングや動画視聴による研修等、工夫しながら実施されている（両病院） ●府中北市民病院を中心として取り組んでいる上下地での広報誌などの独自の取組は、地域の介護事業所等との連携・協力により、地域づくりに寄与している（北市民）		
●市の健康福祉関連施策への積極的な協力 府中市市民病院：「女性予防医学チーム」において、市の保健事業に府中市市民病院の婦人科医師を講師として派遣。 府中北市民病院：フレイル予防のため、院長を中心に地域での講演活動を開催。	[課題] ●市民への積極的な情報発信 便利で分かりやすく、市民がより関心を持つ内容となるよう工夫するとともに、診療内容や治療実績など受診につながる情報の提供に努められたい。 ●人事制度の効果的な活用 職員の意欲を引き出せる人事制度の構築に努められたい。		
●市民から選ばれる病院づくりの取組 看護部の組織改革、患者満足度調査の実施、接遇研修、個人情報保護研修会、ハラズメント防止研修会などを実施。 患者満足度調査結果は、前年度の満足度を5.3%上回り、目標を達成。	財務内容の改善に関する事項・その他業務運営に関する重要事項・予算、収支計画及び資金計画		
[実績・成果] ●839万円の赤字決算となり、経常収支比率黒字化の目標は未達成。 電気料金の値上げ（前年度比約3千万円増）などにより、医業費用が増加するなか、赤字額を最小限に抑制した病院機構の経営努力は評価すべき。	[課題] ●健全な財政運営の継続 令和5年度以降も、病院経営にとって厳しい状況が予想される。市も必要な支援は行うが、病院機構としても引き続き健全な財政運営に努められたい。		